

水班フィールドワーク(長崎大学工学部・環境科学部及び協和機電訪問)

① 長崎大学工学部訪問

7月30日(月)に31名の生徒が長崎大学工学部を訪問し、水処理操作や顕微鏡を使ってアオコの観察などを行いました。また、実際に学内の食堂から排出されている生活排水を観察し、普段私たちが何気なく流している食べ残しや食器を洗ったあとの生活排水がどれだけ汚れているかを見ることができました。においもかなりきつかったです。また、工学部が研究に使っている生活排水処理システムの中を観察しました。研究所へ移動して、顕微鏡を使ったり、濾過器を使ったり、スマホデジカメによる水質分析の簡易光度計を試作したりと、普段経験することのできない貴重な体験をすることができました。とても充実したフィールドワークとなりました。



② 長崎大学環境科学部訪問

8月2日(木)、33名の生徒が長崎大学環境科学部を訪問し、濱崎宏則准助教による講義「長大研究者に聴く海外学術調査のツボ」を受講しました。生徒は海外におけるフィールドワークを行う際の難しさ、現地の方々の声に耳を傾けることの大切さなどの講義を聴き、海外(主にトルコとカンボジア)が抱える水環境問題について質問したり、互いに意見を交わしたりしました。また、大学の先生方から各班のテーマに関して、情報収集の仕方や研究の進め方や方向性など、様々なアドバイスをいただきました。生徒からは「現地のことを知るためには現地の人を聴くことが大切」「何事も自分で動く積極性が大事」「発展途上国の教育がしっかりしていないとばかり思っていて恥ずかしかった」「自分の班のテーマについてアドバイスをいただいて、様々なアプローチが見えてきた」などの感想が聞かれ、今後の研究への意欲がわいたようです。



③ 協和機電訪問

7月31日(火)に31名の生徒が協和機電工業株式会社を訪問し、水の浄化や海水淡水化システムなどについて学習しました。水の浄化については、51項目もの基準をクリアしなければならないことを教えていただき、また、実際に濁った水を濾過して飲む水へと浄化する実験では、レバーを引く度に水がどんどんきれいになっていくのを見て、生徒たちは新鮮な驚きに目を丸くしていました。また、災害時に活用できる簡易浄化装置を紹介していただいたことで、水の浄化という問題を身近に感じることができました。ある生徒は、「水というと、世界の水不足のように大きな問題しか浮かんでこなかったが、もっと身近なところから課題は見つけられると気づいた」と話してくれました。水環境の改善に向けて、地元の水のプロから学んだ知識を生かして、どのように研究が進んでいくか楽しみです。

